北九州

報道部 〒802-8651 小倉北区紺屋町13-1 毎日新聞西部本社
電話093・511・1110 FAX522・1721
seibuhoudo@mainichi.co.jp
購読相談室 0120-547012(平日10-18時)
広告 531・6481 オリコミ 475・0300

電話詐欺

着手から9月 高齢者対象

犯人の声紋分析や逮捕の糸口をつかむことにもつながる可能性がある」と話した。

県警によると、今年7月末までの特殊詐欺被害は296件13億388万円で、昨年同期の約2倍。1日あたりの被害額は約900万円に達する。【林由紀子】

「電源多様になり充実」

川内原発再稼働で 知事が期待感示す

九州電力が川内原発1号機を再稼働したことを受け、小川洋知事は11日、「九電の管内全体で電源が多様になり、いっそう充実する。(火力発電などとの)電源間の調整もやりやすくなり、電気料金引き上げの議論も緩和されていくのではないか」と述べ、県内への影響に期待感を示した。【林由紀子】

村上春樹文学国際シンポ

考察や研究成果を発表

小倉北

作家、村上春樹氏の文学を語り合う国際シンポジウムが小倉北区浅野3、北九州国際会議場であった。5カ国・地域の研究者約150人が村上作品についての考察や研究成果を発表。小森陽一・東京大教授ら3人の基調講演があり、市民ら約200人が熱心に耳を傾けた。

小森教授は「村上春樹文学における両義性と日本の近代」と題して、小説「海辺のカフカ」で描かれる人間の暴力と国家が遂行する戦争という暴力を無媒介的に結びつける構造について解き明かした。小説は2001年の米同時多発テロから1年後に発表され、小森教授は主人公が「父を殺し、母と姉と交わる」という根源的なタブーを犯しても入いたしかたない>とする考えを持っていることを説明。「近代国家が形成したタブー破りは、最もやってはならない罪であるはずの人殺しを相対化したこと。主人公を描くことで、イデオロギーによる人殺しの正当化という両義性を産出した」と述べた。

また「『テロとの戦争』という口実により、人間社会が全体として根源的なタブーを犯してしまったという罪障感が『9・11』とそれ以降の『テロとの戦争』に対して世界的に発生し、小説は世界中で多くの読者を獲得した」と指摘した。

シンポジウムは、台湾の淡江大村上春樹研究センターなどが主催。台湾で過去3回開かれ、国内での開催は北九州市が初めて。同センターの落合由治副主任は「こうした形で文化交流の輪が東アジアで広がれば」と話していた。【長谷川容子】

村上作品の構造について語る小森教授

法案は憲法違反

前山口県岩国市長 井原勝介さん(65)

衆院の強行採決 民主主義の破壊 議論起こし撤回を

法案の狙いは、日本を正面切って戦争に参加できる国にすることだ。自民党が掲げる憲法改正草案の国防軍創設にもつながっている。安倍晋三首相は「米国と一緒になって戦争するのが日本のため」と説明すべきなのに、ごまかしている。

岩国には、攻撃機を配備する米海兵隊と海上自衛隊共用の航空基地がある。集団的自衛権が行使され、海外で自衛隊が米軍と一緒に武力行使する事態になると、岩国の基地は相手国が狙う標的になりうる。法案について、市民は自分たちの問題として考えている。

法案は憲法違反だ。9条では我が国への武力攻撃を排除するための武力行使は個別的自衛権としてできるが、他国の防衛を目的とする集団的自衛権の行使は認められていない。

政府が危機感をあおる尖閣列島などでの脅威は、個別的自衛権で対応できる。憲法改正の手続きを取らず、閣議決定で解釈を変更して集団的自衛権に踏み込むのは、99条の国務大臣らの憲法尊重擁護義務にも反する。法案が成立すれば全国で違憲訴訟が起こされ、混乱するだろう。

衆院での強行採決は民主主義が破壊される過程でもある。国民に議論を巻き起こし、法案を撤回させたい。【聞き手・古賀亮至】

どうする安保

はがき随筆

よみがえった塀

我が家のモルタル塀は数十年が経過し、汚れやカビで黒ずんでいた。近くのホームセンターに行くと「高圧洗浄機で汚れを落としペンキを塗れば素人でもきれいになります」とのこと。日ごろから畑仕事の師匠と仰ぐ85歳のY氏に相談すると「高圧洗浄機はうちにあるから使いなさい。雨上がりに洗浄すると汚れも落ちるよ」と助言を受けた。

一念発起、麦わら帽子に長靴姿で作業を始めると面白いように汚れが落ちた。3日で仕上がった。すると子供の頃、母の仕事を手伝っている時に言われた言葉を思い出した。「習うより慣れろ。仕事が教えてくれるよ」

門司区吉志 大久保 勉(69)

●2015.8.12

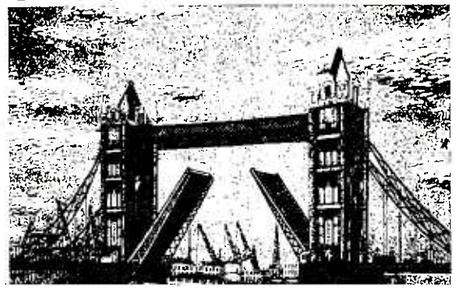
放浪の天才画家

「山下清展」から

下

円熟期を迎えた傑作

1961年、39歳の山下清は、四十数日間で9カ国を巡るヨーロッパの旅へ出発します。当時の日本は、オリンピックを数年後に控え、急速に発展する過程にありましたが、海外旅行は庶民にとって夢のまた夢という時代でした。貼絵「ロンドンのタワーブリッジ」について、清は「難しい橋をスケッチした」と言っています。それは、橋の構造やデザインが複雑な上に可動橋のため、橋が開くのを待つ必要があり、開いたらすぐに描かなければならないという慌ただしさも乗船している人と、テムズ川の見事に表現し、画家・山下清の代表です。(山下浩)



◇

「放浪の天才画家」は小倉井筒屋新ホールで開催中。会期中無休。一般など。

きょうの第3地域面

21面

使用考ふえてます。1日使い捨て 遠近